

三島木経済通信

9月28日

発行所
株式会社FPリサーチパートナーズ
〒213-0001
川崎市高津区溝口3-7-21
044-814-3553
協賛
溝の口夜大学
電子版アドレス
fp-research.jp/keizai/0928

資産を「守る」「育てる」
「引き継ぐ」

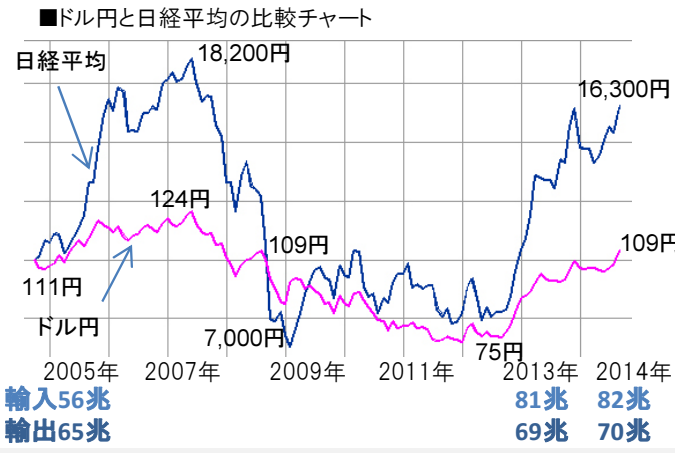
アセットコンサルティング
プライベートバンクservice
詳しくはHPにて

Tel : 044-814-3553
www.fp-research.jp



円安進行109円台に株高も

外国為替のドル円相場が動いた。実に6年ぶりの水準で1ドル109円台に突入している。要因としては米国の利上げ開始の見通しがついたこと、私たちの年金を運用するGPIFFの外貨建て運用の比率引き上げの可能性が高まっていることがあげられる。ドル金利が上がる、日本の巨額な年金資産の運用がドル建てで増えれば必然的にドルが買われる。ドルが買われるということはドルが上昇することにつながる。米国株式市場は過去最高値、日本株式市場も年初来高値を記録し期待が高まる。図は過去10年のドル円相場と日経平均株価を重ねたものだが基本的にドル円相場と日経平均株価は連動する性質がある。この10年で一番株価が高かったのは2007年で約18,000円程度、ドル円相場も2007年に1ドル124円が記録されている。過去の歴史からも市場期待はドル円相場110円台後半、日経平均18,000円台が期待されている。



輸入増加の構造変化

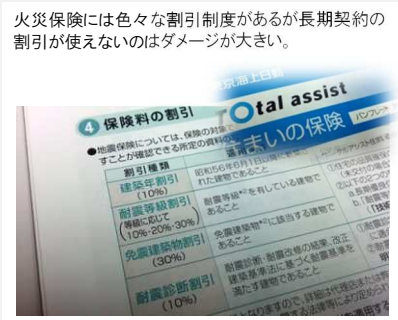
とは言えドル円相場がドル高(円安)になれば確実に株式市場が回復するとは限らない。一般的に輸出入の決済はドル建てで行われ、輸出が多かった時代はドル高(円安)は輸出したものが高く売れるので有利だが輸入は逆に「高く買う」とになり痛手となる。2005年は輸入が約56兆

円で輸出の65兆円よりも少ない。すなわちドル高のメリットが大きかった。2014年は輸入額が約82兆に対して輸出70兆程度であり、ドル高(円安)は必ずしも日本経済にプラスとは限らない。以前のようなドル高が絶対的に日本の株式市場に良いとは限らない時代になっている。

保険

火災保険実質値上げへ

火災保険の長期契約ができなくなる。これまで一般的に35年の火災保険に加入することが出来たが、相次ぐ自然災害の為先行き予測が困難になっている。その為通常は35年の長期契約の場合大きな割引があったが最長10年までの加入となり長期契約の割引が使えず、実質的な値上げとなる。地震保険も値上げされたばかりであり、家に対する保険料は一気に高くなった。損害保険会社は受け持つ多くの保険を再保険会社に保障してもらっている。この1年での株高もあり損害保険会社は過去最高利益を記録した。過去最高の利益と実質の値上げ、企業努力という姿勢も欲しいと感じたがそれ以上に自然災害が見逃せないようだ。



時事

米シティ個人向け日本撤退へ

新生銀行などが売却先候補に

米金融大手シティバンクが日本で展開している個人向け業務の撤退を具体的に検討しており、現在支店などの売却先を模索している。撤退の大きな原因は昨今の低金利だ。銀行の収益源として貸出による利息収入は経営の基盤だ。日本の銀行は昨今の低金利で利益が伸びない為「投資信託」「保険」などを積極的に販売し、手数料収入で賄っている。売却候補には新生銀行などが手をあげており、引き継いだ店舗の顧客が大きな狙いようだ。



顧客サービスが類似する両行

経済

個人向け国債利率からみる金利

プロ向け短期市場ではマイナス金利も

安心・確実と宣伝される個人向け国債。現在大きくは3年固定金利、5年固定金利、10年変動金利に分けられる。金利の先行きを占う上で目先の金利というものはとても重要だが「期間による金利差」が一番重要だ。赤い線で囲った所は平成22年の年末付近で、3つの金利がかなり接近している。一般的に金利が上がりにくい時に起こる現象で「長期的にみても金利が上がらない」という見方ができる。



個人向け国債、直近の利率。
非常に低くネット定期預金に
負けてしまう。

金融状態が良くなるにつれて、目先の短期間の金利と長期間の金利差が拡大していくことが一般的で先行き(長期)の金利が先行して上昇していく。安倍政権になってから基本的に短期間の金利と長期間の金利差が保たれており決して悪い状態ではない。期間が短いプロ向けの1年未満の国債はマイナス金利が発生し、メディアが大きく取り上げた。ただ初めての事ではない。マイナス金利は国債を買った人が利息を逆に払う訳で、私達には理解が難しいが、海外でも起こる現象。今回のマイナス金利は景気対策という観点からはとても強いメッセージだ。日本銀行は金利がマイナスでも国債を買うというメッセージを強く打ち出せたからである。

相続

個人の相続知識、徐々に高く

平成27年1月1日相続発生からは新しい相続税率、控除額の適用になり、個人の関心も大きい。今まで縁のなかつた相続税に対して知っておこうとセミナーなどに参加する人が増えた。その背景からか個人の相続問題に関する知識も以前より高くなりつつある。知識が高くなった分「相続に関する争いごと」も今後増えることが懸念される。大きい要素は遺留分と遺言書。遺言書があれば大丈夫という考え方は既になくなりつつあり「遺留分は用意しておく」という考え方に変化がみられる。今後は税金対策よりも分割対策にも関心が高まる。

家庭で学ぶマネー講座

YouTube にて配信中!



好きな時間にスマホやパソコンで学習!
詳しくはFPリサーチパートナーズのGoogle+を

<https://www.google.com/+Fp-researchJp>

詳しくはwebサイトから

FPリサーチ Google+



- 教材内容
DVD6巻、レジュメ、質問シート
- 授業形態
ホワイトボードとPowerPoint (PC)を使った解説で学びます。

予約受付中
詳細は問い合わせ
下さいませ。

N・ASSET
n-asset.com

不動産の「賃貸」「管理」「売買」の事なら
溝の口駅すぐの株式会社エヌアセットへ

詳しくはwebサイトから

お問い合わせは
☎044-814-3553
✉info@fp-research.jp



FP三島木のマネーセンスアップ講座 vol.33

主な高齢者向けの住まい

名称	入居のハードル	初期費用	月額費用
特別養護老人ホーム(特養)	高い	基本なし	10万程度
老人保健施設(老健)	高い	基本なし	10万程度
ケアハウス	低い	数百万程度	15万程度
有料老人ホーム(健康型)	低い	高額	30万程度
有料老人ホーム(住宅型)	低い	高額	20万程度
有料老人ホーム(介護型)	低い	高額	20万程度
サービス付き高齢者向け住宅	低い	数百万程度	20万程度

施設を検索できる「HOME'S介護」概ねの予算などを知ることによりに活用できる。



介護費用などは突然かかるもの、自分や親などを想定し少しでも知っておけると安心。



ライフ

老後の介護と費用、選択肢を確認

将来の必要資金計算をしておこう

老後の生活設計、少し先の話かもしれませんが備えは事前に行うと安心です。老後の住まいは以前に比べて選択肢は増えているものの、費用との相談になり一概にどの方法がベストとは言えないからです。一般的に老人ホームなどで健康なうちから入居できる所は限られ、老人ホームの健康型やサービス付き高齢者向け住宅などが活用されます。基本的に民間業者が運営しており、交通などの利便性が良い所になるほど初期費用が高くなる傾向があり、月額費用は概ね20万円程度というのが相場になっていきます。通常の賃貸住宅では受けられない生活の相談など受けてくれるので利用者が増えていますが、介護などが必要になると退去しなければならぬ施設が多く注意が必要です。どの程度まで面倒をみてくれるかしっかりと確認しておきましょう。介護状態になった時に費用が圧倒的に安い特養に入居できれば良いのですが入居待ちの方が多く入居できる保証がありません。このような現在の高齢者の住まいのあり方を見ると最低でも月20万以上の支出がある前提で資金計画をしておいた方が無難と感じます。子供世代は益々厳しい時代に入っていくことを考えると自身で準備しておきたい所です。

月20万円×20年

一般的な老後を70歳からと考えた時に今の超高齢化社会ではあと20年程度の収支は計算しておく必要があります。月20万を20年続けると4,800万円になります。公的年金や自身の資産、個人年金などの収入があるとしますので不足分を計算し、足りない資金に対して備えておくと思えます。ローンが払い終わった自宅などの資産も売却すれば老人ホームの入居金に充てられると考えると考えられます。様々な老後のライフスタイルがありますので、自分に適した方法を模索してみても良いかもしれませんね。

N-ASSET Berry

- ・不動産投資のコンサルティング
- ・事業資金のファイナンスアレンジ
- ・不動産経営のコンサルティング

「人気の東急線エリアの物件取扱多数！」
「購入・売却コンサルティング随時受付中！」

ご要望をお気軽にお問合せ下さい。

不動産コンサルティング技能登録者
CPM有資格者、CFP認定者が対応いたします。



お気軽に資料請求下さい

Tel: 044-382-0200

詳しくはwebサイトから

エヌアセットベリー

検索



株式会社FPリサーチパートナーズ

暮らしの「困った!」は大丈夫ですか?

ライフプラン 住宅ローン 保険見直し

資産運用投資 相続対策贈与

地元のファイナンシャルプランナー事務所にご相談して解決しよう!

詳しくはwebサイトから www.fp-research.jp

FPリサーチ 検索 Click!

☎044-814-3553

✉ info@fp-research.jp

川崎市高津区溝口3-7-21 シャテロ高津1F 高津駅徒歩1分

株式マーケットウォッチ

market research



2014年9月28日号 第10号

今後1カ月のマーケット予測

9月の相場は大きく上昇した。図は日経平均株価の1年と10年のチャート。日経平均はようやく年初からの高値を更新し、上昇ムードが市場にもでてきている。下図の10年チャートを合わせてみることでどの程度の相場観かを確認できる。

良く言えば「まだリーマンショック手前まで戻っていない」悪く言えば「これだけ市場期待が高まっているのに株価が戻らない」という表現ができる。ただ、相場の方向性は上を向いたとみることが出来る。

今後1カ月の日経平均の予想レンジは16,000円〜17,000円とみる。16,000円の底固めがまずは行われる10月となりそう。ドル円相場は107円50銭〜111円程度の110円超えが意識。

10年国債利回りは0.5%台の現在が下限に達したと考えられるが米国利上げと消費税増税を控える緩和との攻防ですぐに上昇するのは考えにくい。REIT相場は横ばい。



※株式マーケットウォッチに記載されている内容はFP三島木の個人的な見解であり投資成績の保障をするものではありません。投資におきましてはリスクを十分に理解し自己判断の上行うよう注意してください。

先月配信の振り返り (7月)

	予測	結果	精度
日経平均	14,500円 ~16,500円	14,753円 ~16,374円	◎想定レンジ
ドル円	101.00~103.50	101.48~109.52	×

7月配信	配信時株価	目標株価	結果 9月26日終値	騰落率
サンリオ	2,970円	3,490円	3,335円	+12.29%

7月配信	配信時株価	目標株価	結果 9月26日終値	騰落率
ガンホー	605円	700円	534円	-11.74%

注目銘柄 9月26日終値

	注目銘柄1	注目銘柄2
銘柄名	コナミ	オイシックス
市場	東証1部	東証マザーズ
株式コード	9766	3182
現在株価	2,268円	2,405円
目標株価	2,500円	2,900円

日経平均の上昇傾向が強い為今回は伸びしろの大きな銘柄に注目してみた。コナミはカジノ関連で法案の見通し次第では上昇の可能性を残す。配当が低く9月の中間配当シーズンにはおいて行かれた感で値ごろ感が強い。オイシックスはリクルート関連銘柄で買われだせば上昇は早い。高品質の食材販売を行っており、今後ニーズが増えることが期待できる。中期的に持ちたい株式。

日経平均は概ね想定範囲内で相場が動いたが為替レートは大きくドル高へ加速した。一気に進行したドル高の割には日経平均は伸び悩んでいる感じがある。サンリオは堅調に推移し一時3,470円まで上昇。配当権利落ちも終了し今後は大幅上昇の過度な期待感禁物。ガンホーは売られた。一時代を築いたゲーム関連株は日経平均が弱気の時に上昇していた分、余計に売られてしまいう格好になった。